

(点)

	調査数	洗濯	食事の支度	食事の後かたづけ	家の掃除	日常のゴミ出し	掃除・入浴の準備や風呂場の	日常の買い物	日常の家計管理
全体	1563	0.12	0.10	0.20	0.29	0.50	0.37	0.30	0.25

【性別】

性別	調査数	洗濯	食事の支度	食事の後かたづけ	家の掃除	日常のゴミ出し	掃除・入浴の準備や風呂場の	日常の買い物	日常の家計管理
女性	856	0.11	0.10	0.17	0.24	0.44	0.30	0.26	0.25
男性	654	0.14	0.11	0.25	0.35	0.57	0.47	0.33	0.24

(点)

	調査数	生活費の確保	高額な買い物や資産の管理	地域活動への参加	子どもの世話	子どものしつけ・教育	お年寄り、病人の世話・介護	親戚とのつきあい	近所とのつきあい	【16項目の平均】
全体	1563	1.62	1.09	0.83	0.39	0.63	0.47	0.84	0.51	0.55

【性別】

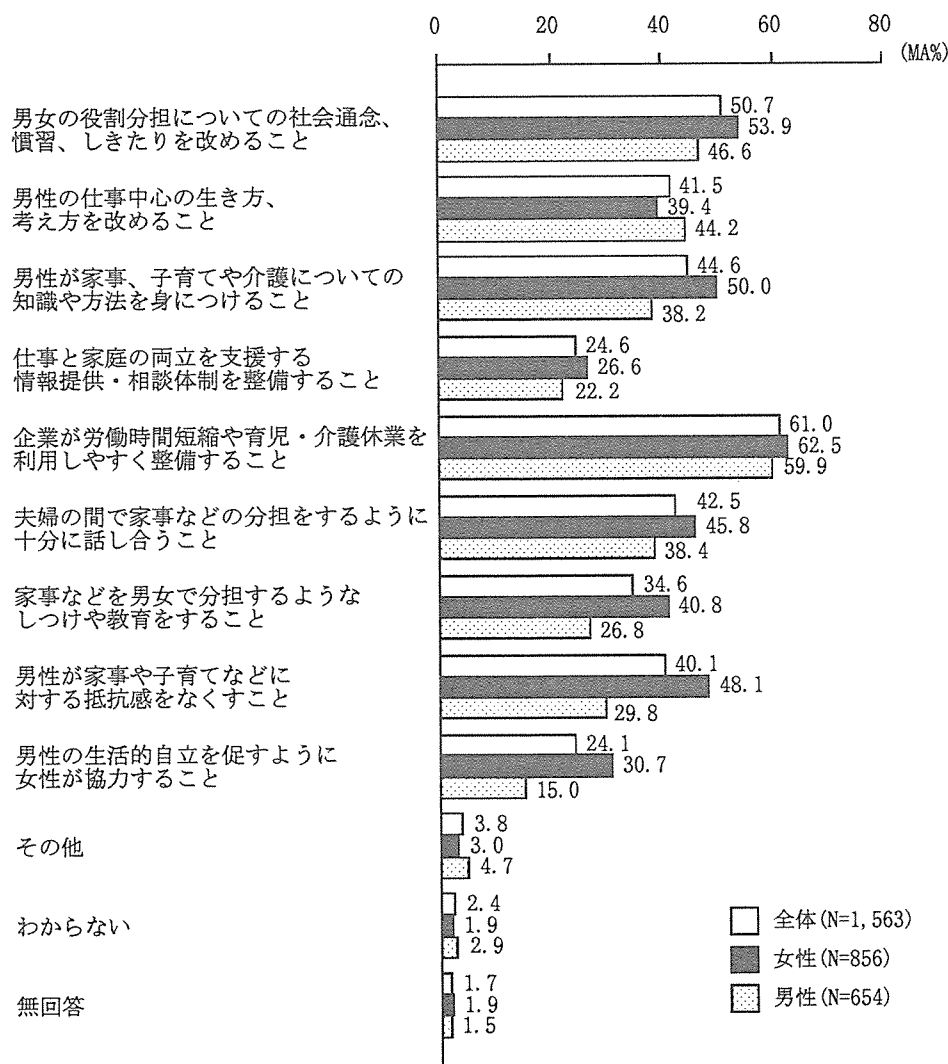
性別	調査数	生活費の確保	高額な買い物や資産の管理	地域活動への参加	子どもの世話	子どものしつけ・教育	お年寄り、病人の世話・介護	親戚とのつきあい	近所とのつきあい	【16項目の平均】
女性	856	1.56	1.07	0.78	0.36	0.58	0.42	0.76	0.45	0.47
男性	654	1.71	1.10	0.90	0.43	0.70	0.52	0.94	0.57	0.65

【全国調査との比較】

〈ライフスタイル調査〉の「あなたのご家庭では、次にあげるような家事などを、主にだれが分担していますか」と対比すると、国の調査では、「炊事、洗濯、掃除などの家事」は「妻」が86.6%、「子どもの世話、子どものしつけや教育」は「妻」が56.3%、「家族全体」が38.0%、「親の世話」は「妻」が55.8%、「家族全体」が32.7%となっており、「夫」の割合はいずれも5%未満である。今回の県調査でも、夫の分担の度合いは全体的に低くなっている。また、「子どもの世話」と「子どものしつけ・教育」とでは、夫の分担度に差が大きいことが明らかとなっている。

1-5. 男性が家事、子育て等に参画するための条件

問5 今後、男性が女性とともに、家事、子育てや教育、介護に積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思われますか。(〇はいくつでも)



◇ 約6割が「労働時間短縮や育児・介護休業を利用しやすくする」、約5割が「性別役割分担の社会通念、慣習、しきたりを改める」。

男性が家事、子育て等に参画するために必要な条件としては、「企業が労働時間短縮や育児・介護休業を利用しやすく整備すること」が61.0%と最も多く、次いで「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が50.7%となっている。その他の項目については、ほぼ20~40%強である。

【性別】

ほとんどすべての項目で、女性が男性を上回っているが、その差が特に大きいのは「男性が家事や子育てなどに対する抵抗感をなくすこと」(18.3ポイント)、「男性の生活的自立を促すように女性が協力すること」(15.7ポイント)、「家事などを男女で分担するようなしつけや教育をすること」(14.0ポイント)、「男性が家事、子育てや介護についての知識や方法を身につ

けること」(11.8 ポイント) などである。これに対し、男性が女性を上回っているのは「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」であり、その差は4.8ポイントとなっている。

#### 【性・年代別】

「男性が家事や子育てなどに対する抵抗感をなくすこと」については女性の20歳代で56.5%と特に高い。また、「男性の生活的自立を促すように女性が協力すること」は40歳代以上の女性で30.7%となっている。「男性が家事、子育てや介護についての知識や方法を身につけること」は女性が全体的に高いが、高年男性も比較的高く、50歳代37.9%、60歳以上では45.0%となっている。一方、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」では、男性が全体的に高いが、30～40歳代の女性でも45%を超え、男性とほぼ同じになっている。

#### 【性・職業別】

「企業が労働時間短縮や育児・介護休業を利用しやすく整備すること」では、女性のフルタイム及びパートタイマーで70%近くになっているほか、女性のその他・無職、男性のパートタイマーでも60%を超えている。「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」については、女性の自営業・家族従業で58.0%と最も高い。また、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」については、男性ではいずれも40%を超え、女性のフルタイムやパートタイマーでも、男性と同程度の割合となっている。

#### 【性・未既婚・子どもの有無別】

「企業が労働時間短縮や育児・介護休業を利用しやすく整備すること」では、男女とも未婚者の回答割合が既婚者を上回っており、女性の未婚で73.8%と最も高くなっている。また、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」では、女性では未婚者よりも既婚者が高く、既婚者のうちでも、子どものいる人がより高い。「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」では、男性の既婚者の割合が、女性や男性の未婚者を上回っている。

(MA%)

	調査数	女性の役割分担についてきたり社会通念、慣習、改めること	男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	介護を身につけること	男性が家事、子育てや体制を整備すること	仕事と家庭の両立を支援する情報提供・相談	育児や介護業務を利用しやすい環境を整備すること	企業が労働時間短縮や育児・介護休業を利用できるようにすること	夫婦の間で家事などの分担をすること	育するようないしつけや教育をすること	家事などを男女で分担すること	男性が家事や子育てをなすこと	男性の生活の自立を促すこと	男性の生活の自立を促すこと	その他	わからない	無回答
全体	1563	50.7	41.5	44.6	24.6	61.0	42.5	34.6	40.1	24.1	3.8	2.4	1.7				

## 【性別】

性別	女性	856	53.9	39.4	50.0	26.6	62.5	45.8	40.8	48.1	30.7	3.0	1.9	1.9
	男性	654	46.6	44.2	38.2	22.2	59.9	38.4	26.8	29.8	15.0	4.7	2.9	1.5

## 【性・年代別】

女性	20歳代	115	39.1	35.7	53.9	32.2	73.9	41.7	40.0	56.5	25.2	0.9	-	0.9
	30歳代	148	50.7	45.9	43.2	23.6	64.9	37.8	34.5	45.9	23.6	1.4	2.0	0.7
	40歳代	157	57.3	45.2	49.7	30.6	72.0	42.7	50.3	49.7	31.2	1.9	1.3	0.6
	50歳代	197	59.9	36.5	51.8	20.3	57.4	44.7	38.1	45.2	30.5	6.1	0.5	2.5
	60歳以上	238	55.5	35.3	51.3	28.6	53.8	55.5	41.2	47.1	37.4	3.4	4.2	3.4
男性	20歳代	83	45.8	42.2	33.7	18.1	65.1	42.2	16.9	33.7	7.2	4.8	3.6	-
	30歳代	87	35.6	46.0	33.3	23.0	65.5	32.2	24.1	31.0	9.2	8.0	3.4	2.3
	40歳代	109	40.4	41.3	33.9	24.8	63.3	26.6	22.9	24.8	14.7	6.4	2.8	1.8
	50歳代	174	51.1	46.6	37.9	20.1	57.5	35.1	27.6	28.2	11.5	4.6	4.0	1.1
	60歳以上	200	51.5	44.0	45.0	23.5	56.0	49.0	33.5	32.0	24.0	2.5	1.5	2.0

## 【性・職業別】

女性	自営業・家族従業	81	58.0	27.2	51.9	25.9	48.1	49.4	39.5	42.0	38.3	-	-	1.2
	フルタイム	149	50.3	43.6	49.0	30.9	68.5	45.6	53.7	42.3	30.2	4.0	-	2.0
	パートタイマー	156	56.4	43.6	48.1	26.3	68.6	44.9	39.1	51.9	23.1	1.9	-	1.9
	その他、無職	408	54.4	40.0	51.0	26.0	62.5	45.8	38.0	50.7	31.4	3.4	3.9	0.7
男性	自営業・家族従業	114	41.2	43.9	35.1	26.3	50.9	32.5	23.7	32.5	14.9	7.9	3.5	0.9
	フルタイム	323	44.6	45.8	36.2	20.4	64.4	32.2	23.8	27.2	9.9	4.0	3.4	1.5
	パートタイマー、その他、無職	172	54.7	44.2	41.3	22.7	55.8	50.0	32.0	32.0	22.7	3.5	1.2	1.7

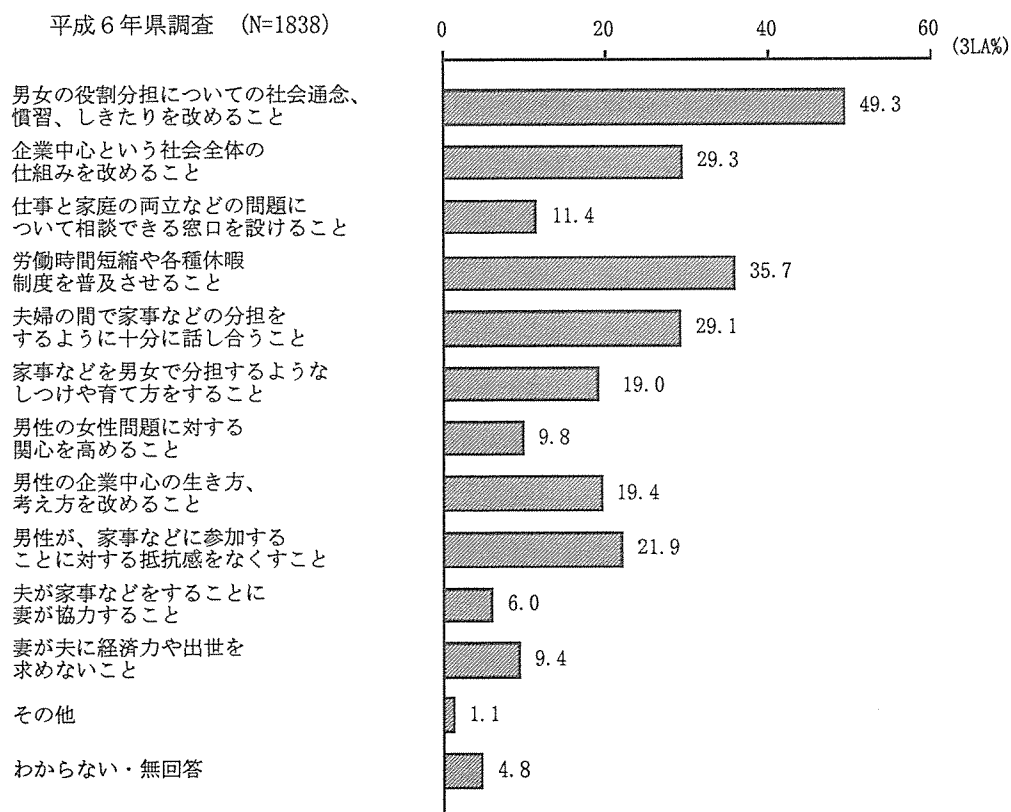
## 【性・未既婚・子どもの有無別】

女性	既婚	703	56.0	40.3	50.4	26.3	61.5	45.7	40.3	48.8	31.2	3.1	2.0	1.6
	子ども有り	638	56.9	40.8	50.6	25.9	62.1	45.0	40.6	48.6	30.9	3.3	1.9	1.6
	子どもはいない	60	48.3	38.3	46.7	31.7	56.7	53.3	35.0	53.3	33.3	1.7	3.3	-
	未婚	126	46.8	40.5	50.8	31.7	73.8	47.6	45.2	49.2	28.6	2.4	-	0.8
男性	既婚	525	46.5	45.5	37.9	22.1	59.2	37.1	28.4	29.1	16.4	5.0	2.9	1.7
	子ども有り	482	47.5	45.6	37.6	22.8	59.1	37.6	28.4	29.0	17.0	5.0	2.9	1.7
	子どもはいない	42	35.7	45.2	40.5	11.9	61.9	33.3	28.6	31.0	9.5	4.8	2.4	2.4
	未婚	117	47.9	40.2	37.6	21.4	65.0	42.7	20.5	32.5	6.0	4.3	2.6	0.9

### 【全国調査・前回調査との比較】

〈ライフスタイル調査〉でも、同様の内容で重複回答を求めている。上位に挙げられているのは、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」(41.3%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(34.9%)、「労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させること」(33.5%)などである。これに対して今回の県調査では、家庭内での役割分担よりも、労働時間短縮や育児・介護休業を利用しやすくするなど、労働環境の整備を重視している。

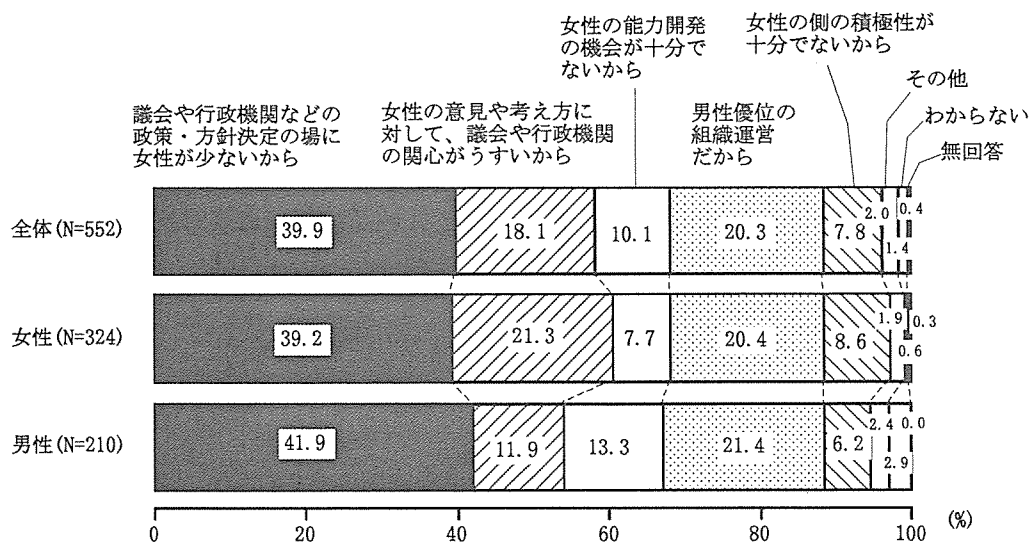
また、〈前回調査〉でも、よく似た質問をしている(○は3つまで)。それによると、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が49.3%と最も多く、次いで「労働時間短縮や各種休暇制度を普及させること」35.7%、「企業中心という社会全体の仕組みを改めること」29.3%、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」29.1%などとなっている。〈前回調査〉で第1位であった「社会通念、慣習、しきたり」は今回調査では第2位に、〈前回調査〉で第2位であった「労働時間短縮や休暇制度の充実」は、選択肢の表現が若干異なるものの、今回調査では第1位となっている。



## 2-2. 県政に女性の意見が反映されていない理由

問6-1 【問6で「3. あまり反映されていない」または「4. ほとんど反映されていない」と回答された方のみにおたずねします】

奈良県の政策に、女性の意見が反映されていないのは、主にどのような理由からだと思いませんか。(〇は1つ)



◇ 「政策・方針決定の場に女性が少ないから」が約4割と最も多い。

「県政に女性の意見が反映されていない理由」としては、「議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」が39.9%を占めている。次いで「男性優位の組織運営だから」が20.3%、「女性の意見や考え方に対して、議会や行政機関の関心がうすいから」が18.1%とともに20%程度となっている。

### 【性別】

男女とも「議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」が約40%、「男性優位の組織運営だから」が約20%となっている。「女性の意見や考え方に対して、議会や行政機関の関心がうすいから」は女性の方が、「女性の能力開発の機会が十分でないから」については男性の方が高い。

### 【性・年代別】

「女性の意見や考え方に対して、議会や行政機関の関心がうすいから」は、高年女性が20%を超え、比較的高い。一方、「男性優位の組織運営だから」については、高年男性が比較的高く、50歳代では27.1%、60歳以上では25.0%と、ともに30%近くになっている。

### 【性・共働きの有無別】

「議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」は、女性では共働き以外(47.1%)が、共働きを11.4ポイント上回っている。一方、「女性の意見や考え方に対して、議会や行政機関の関心がうすいから」及び「男性優位の組織運営だから」については、女性では共

働きの方が高い。

		(%)										
調査数		女性が少ないから	政策や方針決定の場	議会や行政機関など	関心がある	女性の意見や考えを行政機関に	女性のできる機会	男性優位の組織運営だ	女性側の積極性が十分でないから	その他	わからない	無回答
全	体	552	39.9	18.1	10.1	20.3	7.8	2.0	1.4	0.4		

【性別】

性別	女性	324	39.2	21.3	7.7	20.4	8.6	1.9	0.6	0.3
	男性	210	41.9	11.9	13.3	21.4	6.2	2.4	2.9	-

【性・年代別】

女性	20歳代	41	31.7	22.0	12.2	24.4	4.9	4.9	-	-
	30歳代	58	39.7	17.2	6.9	19.0	10.3	5.2	-	1.7
	40歳代	67	40.3	16.4	11.9	22.4	7.5	-	1.5	-
	50歳代	71	49.3	22.5	4.2	21.1	2.8	-	-	-
	60歳以上	86	33.7	26.7	5.8	16.3	15.1	1.2	1.2	-
男性	20歳代	24	45.8	12.5	8.3	20.8	8.3	-	4.2	-
	30歳代	21	38.1	19.0	9.5	14.3	9.5	4.8	4.8	-
	40歳代	46	50.0	6.5	15.2	13.0	8.7	4.3	2.2	-
	50歳代	59	35.6	15.3	11.9	27.1	3.4	1.7	5.1	-
	60歳以上	60	41.7	10.0	16.7	25.0	5.0	1.7	-	-

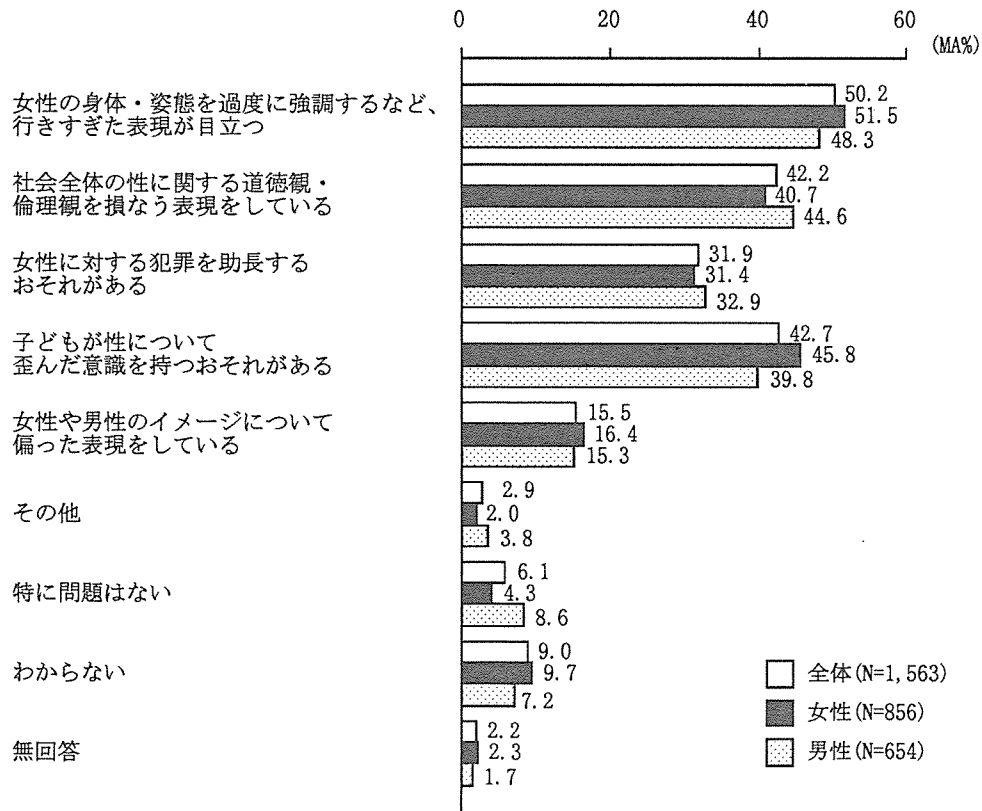
【性・共働きの有無別】

女性	共働きしている	98	35.7	23.5	8.2	24.5	6.1	1.0	1.0	-
	共働きしていない	102	47.1	20.6	4.9	16.7	6.9	2.9	-	1.0
男性	共働きしている	47	42.6	14.9	12.8	17.0	4.3	4.3	4.3	-
	共働きしていない	97	42.3	9.3	14.4	23.7	7.2	1.0	2.1	-

### 3. 女性の人権について

#### 3-1. メディアにおける性表現に対する考え

問7 メディア（テレビ、新聞、雑誌や出版物、インターネット等）における性の表現について、あなたはどのように思いますか。（〇はいくつでも）



◇ 半数の人が「行きすぎた表現が目立つ」と回答している。

メディアにおける性表現については、「女性の身体・姿態を過度に強調するなど、行きすぎた表現が目立つ」が半数（50.2%）となっている。次いで、「子どもが性について歪んだ意識を持つおそれがある」と「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている」がともに40%強となっている。

#### 【性別】

男女とも「女性の身体・姿態などを過度に強調するなど、行きすぎた表現が目立つ」が約半数で最も多い。2位と3位は、男女によって違い、「子どもが性について歪んだ意識をもつおそれがある」については女性の方が、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている」については男性の方が、それぞれ4～6ポイント高くなっている。

#### 【性・年代別】

「女性の身体・姿態などを過度に強調するなど、行きすぎた表現が目立つ」は、男性の50歳以上、女性の40歳以上で50～60%と高い。「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている」についても同様の傾向がみられ、特に高年男性の割合が高い。「子どもが性について歪んだ意識をもつおそれがある」については20～40歳代の女性と30歳代の男性の割合が高



く、子育ての最中にある年代での関心の高さを反映したもののとうかがえる。

【性・性別役割分担意識別】

女性では、「性別役割分担に肯定的な人」は、「女性の身体・姿態などを過度に強調するなど、行きすぎた表現が目立つ」が 56.6%で、「性別役割分担に否定的な人」よりも 5.6 ポイント高くなっている。一方、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている」及び「子どもが性について歪んだ意識をもつおそれがある」は、「性別役割分担に否定的」な女性の方が割合が高くなっている。男性の場合、上位3項目については、性別役割分担意識による考え方の違いはほとんどみられない。

		(MA%)												
調査数		行きすぎた表現が目立つ	女性の身体・姿態を過度に強調する	道徳観・倫理観を損なう表現をしている	社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている	長ずるに對する犯罪を助	女性におそれがある	子どもが性について歪んだ意識をもつおそれがある	性に偏った表現をし	女性や男性のイメージ	その他	特に問題はない	わからない	無回答
全	体	1563	50.2	42.2	31.9	42.7	15.5	2.9	6.1	9.0	2.2			

【性別】

性別	調査数	行きすぎた表現が目立つ	女性の身体・姿態を過度に強調する	道徳観・倫理観を損なう表現をしている	社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている	長ずるに對する犯罪を助	女性におそれがある	子どもが性について歪んだ意識をもつおそれがある	性に偏った表現をし	女性や男性のイメージ	その他	特に問題はない	わからない	無回答
女性	856	51.5	40.7	31.4	45.8	16.4	2.0	4.3	9.7	2.3				
男性	654	48.3	44.6	32.9	39.8	15.3	3.8	8.6	7.2	1.7				

【性・年代別】

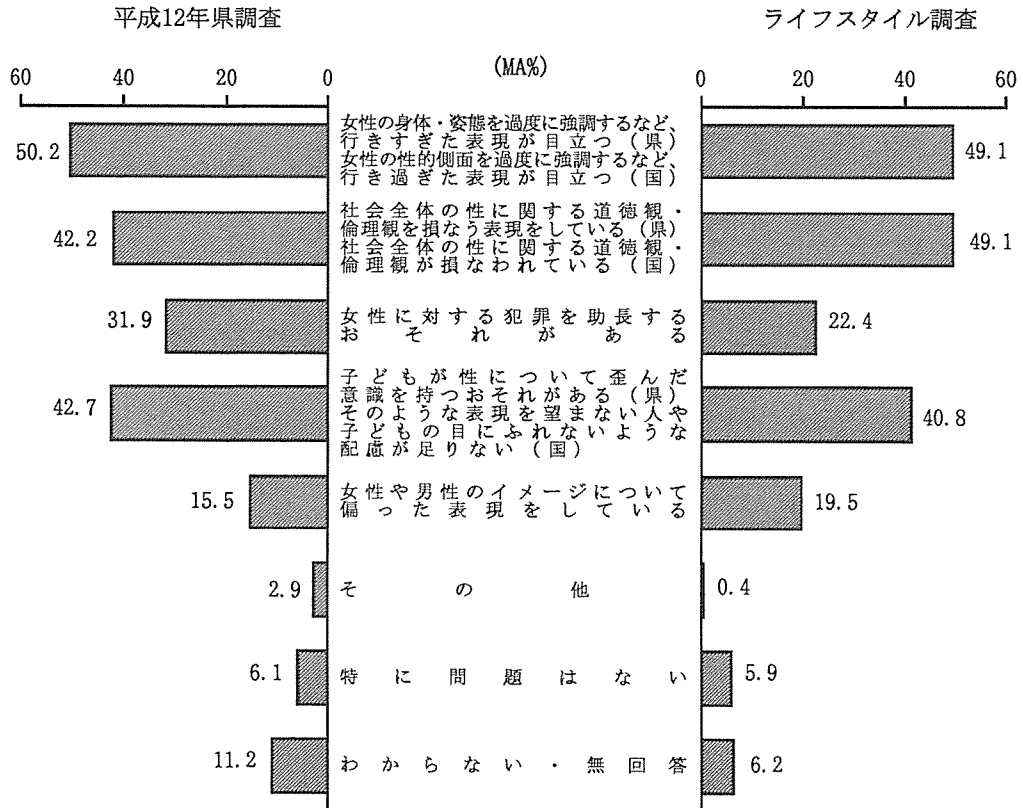
性	年代	調査数	行きすぎた表現が目立つ	女性の身体・姿態を過度に強調する	道徳観・倫理観を損なう表現をしている	社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている	長ずるに對する犯罪を助	女性におそれがある	子どもが性について歪んだ意識をもつおそれがある	性に偏った表現をし	女性や男性のイメージ	その他	特に問題はない	わからない	無回答
		女性	20歳代	115	35.7	26.1	38.3	47.8	18.3	2.6	9.6	8.7	2.6		
	30歳代	148	42.6	35.8	30.4	50.7	16.9	2.7	3.4	14.2	1.4				
	40歳代	157	52.9	43.3	28.0	46.5	18.5	1.9	3.2	6.4	1.9				
	50歳代	197	62.9	48.2	29.9	43.1	18.3	2.0	3.6	5.6	2.5				
	60歳以上	238	54.2	42.4	32.4	43.3	12.2	1.3	3.8	13.0	2.9				
男性	20歳代	83	39.8	32.5	25.3	39.8	18.1	4.8	13.3	6.0	-				
	30歳代	87	35.6	37.9	28.7	44.8	13.8	5.7	6.9	10.3	-				
	40歳代	109	40.4	33.9	38.5	39.4	18.3	7.3	8.3	7.3	0.9				
	50歳代	174	58.6	53.4	34.5	36.8	14.9	3.4	8.0	2.3	1.1				
	60歳以上	200	53.0	51.0	33.5	40.0	13.5	1.0	8.0	10.5	4.0				

【性・性別役割分担意識別】

性別	意識別	調査数	行きすぎた表現が目立つ	女性の身体・姿態を過度に強調する	道徳観・倫理観を損なう表現をしている	社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている	長ずるに對する犯罪を助	女性におそれがある	子どもが性について歪んだ意識をもつおそれがある	性に偏った表現をし	女性や男性のイメージ	その他	特に問題はない	わからない	無回答
		女性	そう思う	152	56.6	34.9	30.9	45.4	14.5	2.0	3.9	9.2	1.3		
	そう思わない	347	51.0	45.0	31.4	48.4	18.7	2.0	2.9	8.9	2.3				
	どちらともいえない・わからない	344	50.9	39.0	31.4	43.0	14.8	2.0	6.1	10.8	2.0				
男性	そう思う	191	47.6	46.6	34.6	42.4	9.9	3.7	9.4	6.8	3.1				
	そう思わない	198	50.0	43.9	32.3	39.4	18.7	3.0	11.1	5.6	-				
	どちらともいえない・わからない	256	47.7	44.5	33.2	39.1	17.2	4.7	5.9	8.6	1.2				

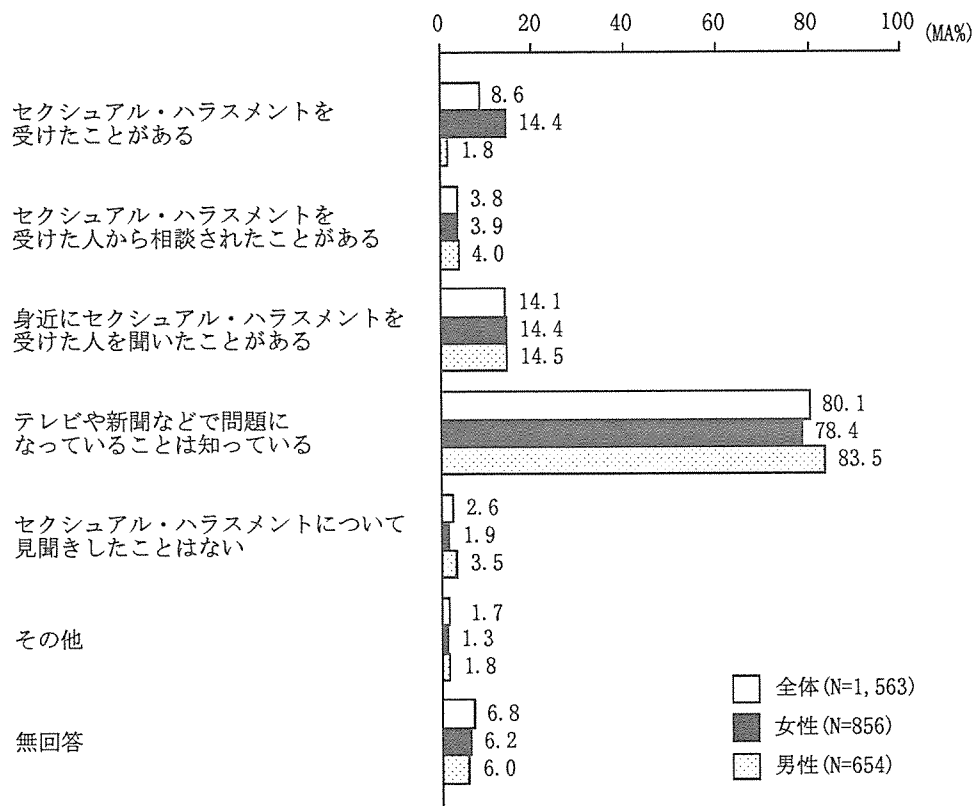
【全国調査との比較】

〈ライフスタイル調査〉でも、「メディアにおける性・暴力表現についての考え」を尋ねており、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」がともに49.1%と最も多く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもにふれないような配慮が足りない」が40.8%となっている。今回の県調査でもこれら3項目が上位を占めており、おおむね同じ回答傾向となっている。



### 3-2. セクシュアル・ハラスメントの実態

問8 セクシュアル・ハラスメントが問題になっています。あなたはこれまでに、セクシュアル・ハラスメントについて、経験したり見聞きしたことがありますか。(〇はいくつでも)



◇ 女性の約 1.5 割が「セクハラを受けたことがある」。

セクシュアル・ハラスメント（以下セクハラ）を「受けたことがある」という回答は 8.6%、「相談を受けたり身近に聞いた」など、身近なところでセクハラを見聞きした経験をもつ人が 20%に近い。また、身近なところで経験していなくても、全体の 80%が、「テレビや新聞などを通じて」セクハラの問題を知っている。

#### 【性別】

女性の 14.4%が「セクハラを受けたことがある」と回答している。また、相談を受けたり、身近に聞いたなど身近なところでセクハラを見聞きした経験をもつ割合は、男女ほぼ同じ程度となっている。

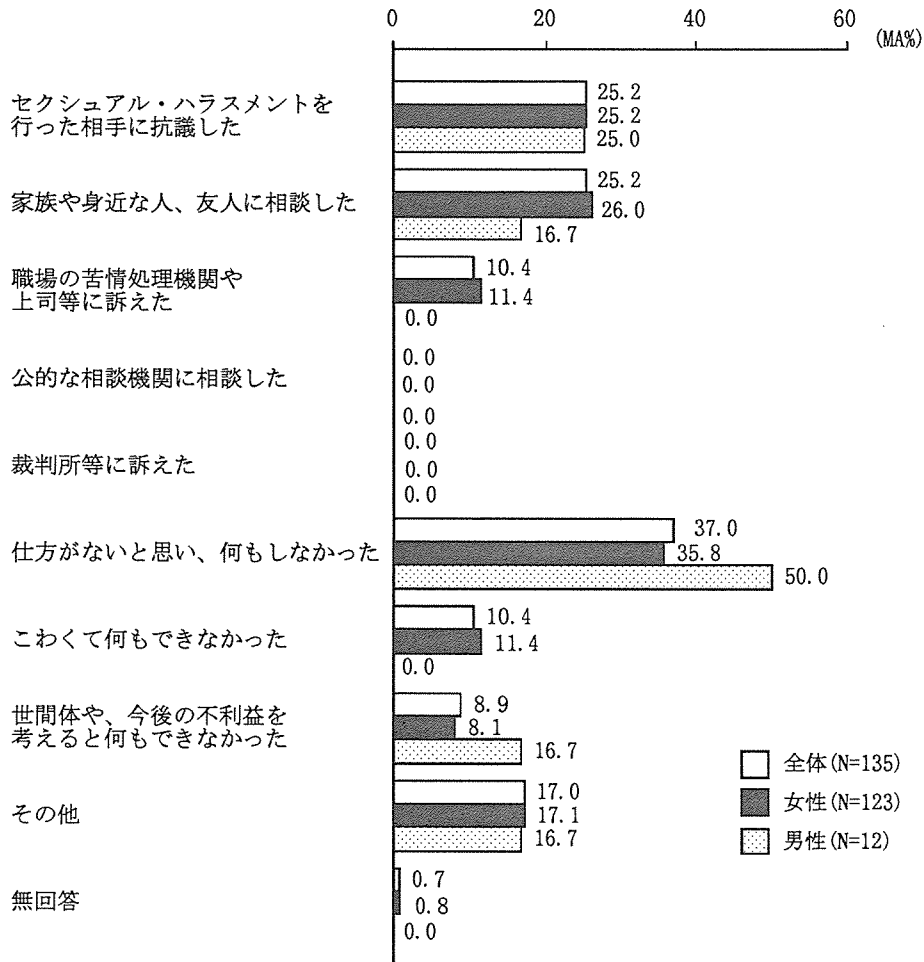
#### 【性・年代別】

女性の回答に絞ると、「セクハラを受けたことがある」という割合は 20 歳代が 27.8%と最も高く、次いで 30 歳代 21.6%、50 歳代 13.7%、40 歳代 10.8%などとなっており、20～30 歳代での割合が高い。

### 3-3. セクシュアル・ハラスメントを受けた時の対応

問8-1 【問8で「1. セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」と回答された方のみにおたずねします】

セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あるいはその後、どのような対応をされましたか。(〇はいくつでも)



◇ セクハラを受けた人の4割弱が「仕方がないと思い、何もしなかった」。

セクハラを受けた時の対応については、「仕方がないと思い、何もしなかった」が37.0%と最も多くなっている。次いで多いのは「セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した」「家族や身近な人、友人に相談した」がともに25.2%となっている。一方、「職場の苦情処理機関や上司等に訴えた」は10.4%、「公的な相談機関」に支援を求めたり「裁判所等」に訴えた人は皆無となっている。

#### 【性別】

「職場の苦情処理機関や上司等に訴えた」「こわくて何もできなかった」については、男性の回答は皆無となっている。

#### 【性・年代別】

女性の回答を年代別にみると、「セクハラを行った相手に抗議した」「職場の苦情処理機関や上

同等に訴えた」の2項目では、30歳代が比較的高い。「仕方がないと思い、何もしなかった」「こわくて何もできなかった」の2項目については、40歳代が比較的高い。

【性・職業別】

女性の回答を職業別にみると、「仕方がないと思い、何もしなかった」は、フルタイムが42.9%で最も高くなっている。さらに、フルタイムでは、「家族や身近な人、友人に相談した」が34.3%と、他の職業を上回っている。自営業・家族従業及びパートタイマーでは、「セクハラを行った相手に抗議した」がともに30%を超えて比較的高くなっているが、パートタイマーでは「世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった」(16.7%)が他の職業よりも高くなっている。

		(MA%)											
	調査数	抗議した	セクハラを行った相手に	家族や身近な人、友人に相談した	職場の苦情処理機関や上司等に訴えた	公的な相談機関に相談した	裁判所等に訴えた	仕方がないと思い、何もしなかった	こわくて何もできなかった	益を考えると今後の不利益を	世間体や、今後の不利益を	その他	無回答
全体	135	25.2	25.2	10.4	-	-	37.0	10.4	8.9	17.0	0.7		

【性別】

性別	調査数	抗議した	セクハラを行った相手に	家族や身近な人、友人に相談した	職場の苦情処理機関や上司等に訴えた	公的な相談機関に相談した	裁判所等に訴えた	仕方がないと思い、何もしなかった	こわくて何もできなかった	益を考えると今後の不利益を	世間体や、今後の不利益を	その他	無回答
女性	123	25.2	26.0	11.4	-	-	35.8	11.4	8.1	17.1	0.8		
男性	12	25.0	16.7	-	-	-	50.0	-	16.7	16.7	-		

【性・年代別】

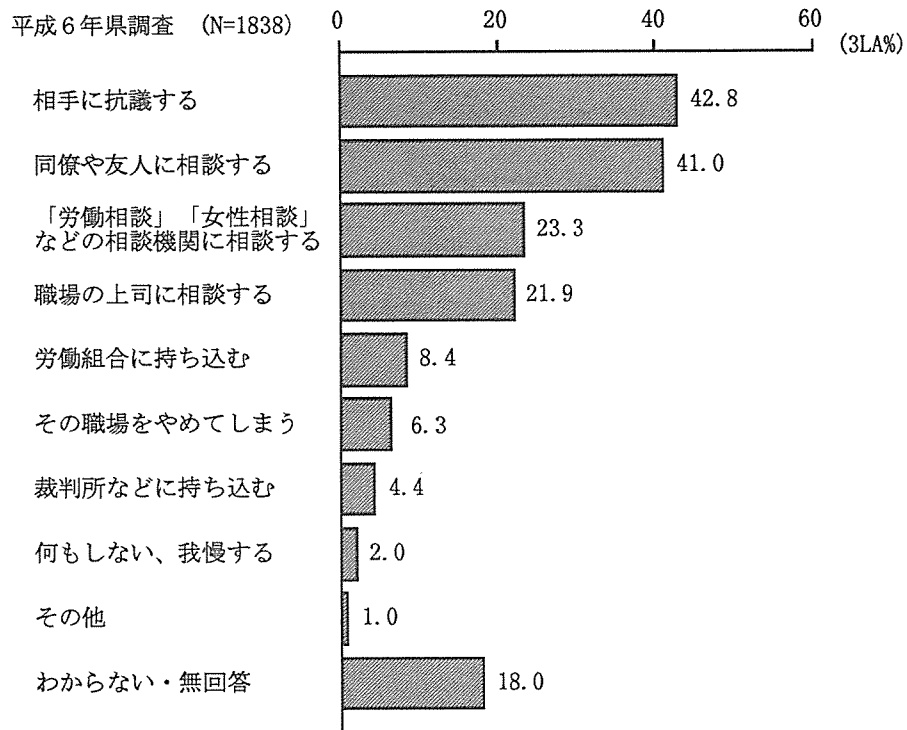
性別	年代	調査数	抗議した	セクハラを行った相手に	家族や身近な人、友人に相談した	職場の苦情処理機関や上司等に訴えた	公的な相談機関に相談した	裁判所等に訴えた	仕方がないと思い、何もしなかった	こわくて何もできなかった	益を考えると今後の不利益を	世間体や、今後の不利益を	その他	無回答
	女性	20歳代	32	12.5	34.4	12.5	-	-	46.9	6.3	3.1	25.0	-	
	30歳代	32	40.6	25.0	28.1	-	-	18.8	12.5	6.3	12.5	-		
	40歳代	17	17.6	23.5	5.9	-	-	58.8	29.4	11.8	11.8	-		
	50歳代	27	25.9	14.8	-	-	-	29.6	11.1	14.8	18.5	-		
	60歳以上	15	26.7	33.3	-	-	-	33.3	-	6.7	13.3	6.7		
男性	20歳代	4	-	-	-	-	-	75.0	-	-	25.0	-		
	30歳代	3	33.3	33.3	-	-	-	33.3	-	33.3	-	-		
	40歳代	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	50歳代	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-		
	60歳以上	3	33.3	-	-	-	-	66.7	-	33.3	33.3	-		

【性・職業別】

性別	職業	調査数	抗議した	セクハラを行った相手に	家族や身近な人、友人に相談した	職場の苦情処理機関や上司等に訴えた	公的な相談機関に相談した	裁判所等に訴えた	仕方がないと思い、何もしなかった	こわくて何もできなかった	益を考えると今後の不利益を	世間体や、今後の不利益を	その他	無回答
	女性	自営業・家族従業	11	36.4	9.1	-	-	-	36.4	9.1	9.1	9.1	-	
フルタイム		35	22.9	34.3	11.4	-	-	42.9	5.7	5.7	14.3	-		
パートタイマー		24	33.3	25.0	16.7	-	-	20.8	8.3	16.7	12.5	4.2		
その他、無職		51	21.6	23.5	11.8	-	-	37.3	17.6	5.9	23.5	-		
男性	自営業・家族従業	4	25.0	-	-	-	-	25.0	-	25.0	50.0	-		
	フルタイム	6	33.3	33.3	-	-	-	50.0	-	16.7	-	-		
	パートタイマー、その他、無職	2	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-		

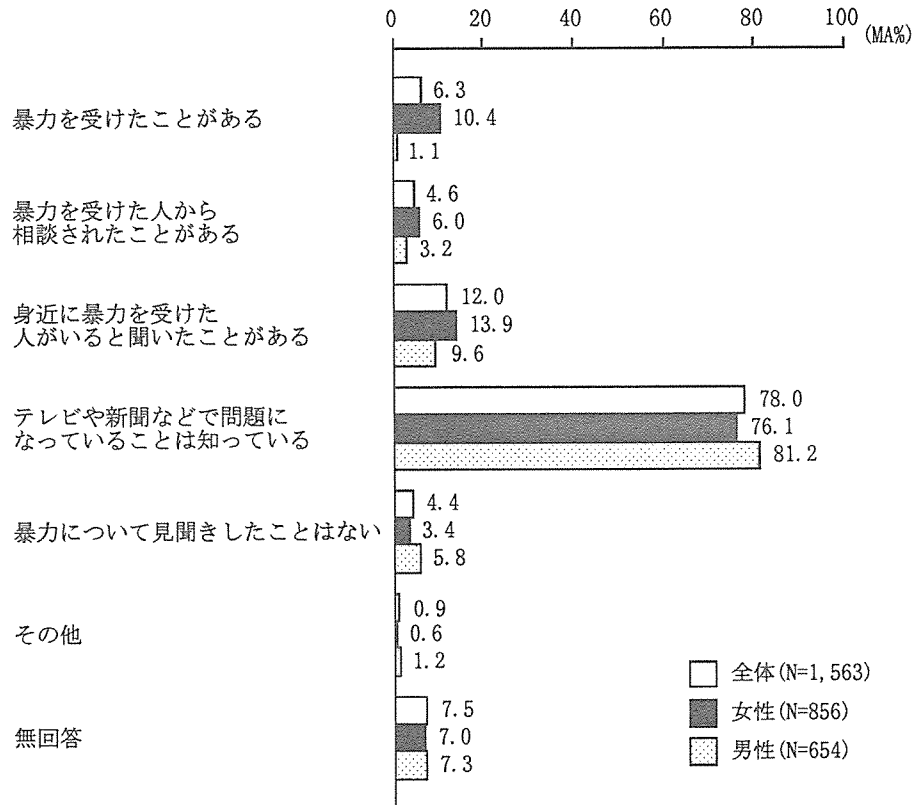
### 【前回調査との比較】

〈前回調査〉では、「もし、セクシュアル・ハラスメントを受けたら、どのように対応しようと思いますか」（○は3つまで）と尋ねている。「相手に抗議する」「同僚や友人に相談する」の2項目が40%以上と多く、「何もしない、我慢する」は2.0%であった。一方、今回調査では、実際に被害を受けた時に、相手に抗議したのは4人に1人、職場の苦情処理機関や公的相談機関等に支援を求めるなどの対応をとった人は10%強にすぎず、大半は「仕方ない」「こわい」「世間体や今後の不利益が心配」等の理由から、何も対応しなかったり、できないでいる。



### 3-4. ドメスティック・バイオレンスの実態

問9 最近、夫や恋人などパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス）が問題になっています。あなたはこれまでに、ドメスティック・バイオレンスについて、経験したり見聞きしたことがありますか。（〇はいくつでも）



◇ 「受けたことがある」は 50 人に 3 人強。8 割近くが「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」。

ドメスティック・バイオレンスを「受けたことがある」という回答は 6.3%、「相談を受けたり身近に聞いた」など、「身近なところでドメスティック・バイオレンスを見聞きした経験を持つ」人が 1 割を超えている。また、身近なところで経験していなくても、80%近くが「テレビや新聞などを通じて」ドメスティック・バイオレンスの問題を知っている。

#### 【性別】

女性の 10.4% がドメスティック・バイオレンスを「受けたことがある」と回答している。また、「相談を受けたり、身近に聞いたなど身近なところでドメスティック・バイオレンスを見聞きした経験をもつ」のは、女性が男性を上回っている。

#### 【性・年代別】

女性の場合、ドメスティック・バイオレンスを「受けたことがある」は 20 歳代 13.0%、50 歳代 12.7%、30 歳代 10.3% などとなっている。

【性・職業別】

ドメスティック・バイオレンスを「受けたことがある」のは、女性のパートタイマーで14.1%、女性のフルタイマーで13.4%とともに15%に近い。

【性・共働きの有無・妻の雇用形態別】

女性の回答では、ドメスティック・バイオレンスを「受けたことがある」のは、「共働きしていない・妻のみ就業」で17.9%、「共働きしている・フルタイマー」で16.9%、「共働きしている・パートタイマー」で14.6%と高い。また、「身近に暴力を受けた人がいると聞いたことがある」のも、ほとんどの場合、男性より女性の方が多い。

【地域別】

ドメスティック・バイオレンスを「受けたことがある」のは、県南地域で9.6%と最も高く、次いで県央地域6.5%、県北地域5.8%、県東地域3.1%となっている。ところが、「身近に暴力を受けた人がいると聞いたことがある」のは、県南が10%を割り、他では10%を超える。

		(MA%)								
		調査数	暴力を受けたことがある	暴力を受けた人から相談されたことがある	身近に暴力を受けたことがある	知っていると聞いている	テレビや新聞などで聞いている	暴力については見聞きしたことはない	その他	無回答
全体		1563	6.3	4.6	12.0	78.0	4.4	0.9	7.5	
【性別】										
性別	女性	856	10.4	6.0	13.9	76.1	3.4	0.6	7.0	
	男性	654	1.1	3.2	9.6	81.2	5.8	1.2	7.3	
【性・年代別】										
女性	20歳代	115	13.0	6.1	16.5	75.7	0.9	0.9	2.6	
	30歳代	148	10.1	6.1	15.5	78.4	2.0	1.4	2.7	
	40歳代	157	8.3	7.6	20.4	80.9	2.5	0.6	4.5	
	50歳代	197	12.7	8.1	12.7	75.1	2.5	-	8.6	
	60歳以上	238	8.8	2.9	8.4	72.3	6.7	0.4	12.2	
男性	20歳代	83	1.2	4.8	12.0	73.5	10.8	3.6	3.6	
	30歳代	87	-	5.7	8.0	80.5	6.9	2.3	5.7	
	40歳代	109	0.9	6.4	11.9	82.6	6.4	1.8	0.9	
	50歳代	174	0.6	1.7	12.1	83.9	4.6	0.6	7.5	
	60歳以上	200	2.0	1.0	6.0	81.5	4.0	-	13.0	
【性・職業別】										
女性	自営業・家族従業	81	9.9	7.4	16.0	72.8	4.9	-	11.1	
	フルタイマー	149	13.4	7.4	16.1	75.8	0.7	1.3	4.0	
	パートタイマー	156	14.1	6.4	12.2	73.1	3.2	-	7.7	
	その他、無職	408	7.8	5.1	14.0	78.4	4.2	0.5	6.1	
男性	自営業・家族従業	114	2.6	3.5	10.5	78.9	6.1	-	8.8	
	フルタイマー	323	0.9	3.1	9.9	86.1	6.5	1.5	2.8	
	パートタイマー、その他、無職	172	0.6	3.5	8.7	76.7	5.8	1.2	11.6	



(MA%)

	調査数	暴力を受けたことがある	暴力を受けた人から相談されたことがある	身近に暴力を受けた人がある	知っている	テレビや新聞などで聞	たことはない	その他	無回答
--	-----	-------------	---------------------	---------------	-------	------------	--------	-----	-----

## 【性・共働きの有無・妻の雇用形態別】

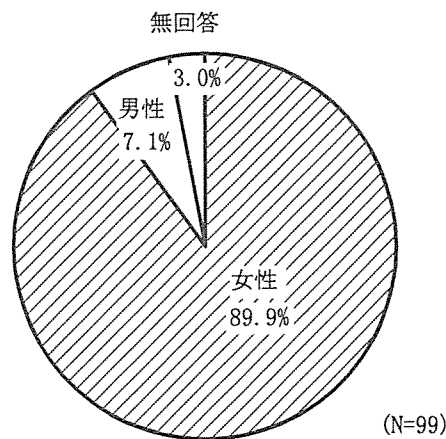
性	共働きしている		暴力を受けたことがある	暴力を受けた人から相談されたことがある	身近に暴力を受けた人がある	知っている	テレビや新聞などで聞	たことはない	その他	無回答
	調査数	MA%								
女性	共働きしている	220	13.6	7.7	14.5	77.7	2.7	0.5	6.8	
	自営業・家族従業員	60	8.3	8.3	18.3	73.3	3.3	-	13.3	
	フルタイム	71	16.9	8.5	15.5	76.1	1.4	1.4	5.6	
	パートタイマー	89	14.6	6.7	11.2	82.0	3.4	-	3.4	
	共働きしていない	292	8.9	5.1	17.1	78.4	4.5	0.7	4.8	
	夫のみ就業	186	7.0	7.0	19.9	82.8	2.7	0.5	3.2	
	妻のみ就業	28	17.9	3.6	21.4	71.4	3.6	-	3.6	
	その他	78	10.3	1.3	9.0	70.5	9.0	1.3	9.0	
男性	共働きしている	153	2.0	3.3	6.5	86.3	5.9	-	3.3	
	自営業・家族従業員	41	-	4.9	4.9	82.9	4.9	-	7.3	
	フルタイム	38	5.3	5.3	10.5	78.9	10.5	-	-	
	パートタイマー	74	1.4	1.4	5.4	91.9	4.1	-	2.7	
	共働きしていない	296	-	2.4	10.8	83.1	6.1	0.7	7.1	
	夫のみ就業	192	-	3.1	13.0	85.9	6.3	1.0	4.2	
	妻のみ就業	18	-	-	22.2	66.7	5.6	-	11.1	
	その他	86	-	1.2	3.5	80.2	5.8	-	12.8	

## 【地域別】

地域区分	調査数	暴力を受けたことがある	暴力を受けた人から相談されたことがある	身近に暴力を受けた人がある	知っている	テレビや新聞などで聞	たことはない	その他	無回答
県北地域	798	5.8	4.4	11.0	78.4	5.1	0.6	7.4	
県央地域	557	6.5	5.0	13.6	78.5	4.3	1.3	6.6	
県東地域	65	3.1	6.2	13.8	81.5	3.1	1.5	6.2	
県南地域	104	9.6	3.8	9.6	71.2	1.9	-	12.5	

## 【ドメスティック・バイオレンスを受けた人の属性】

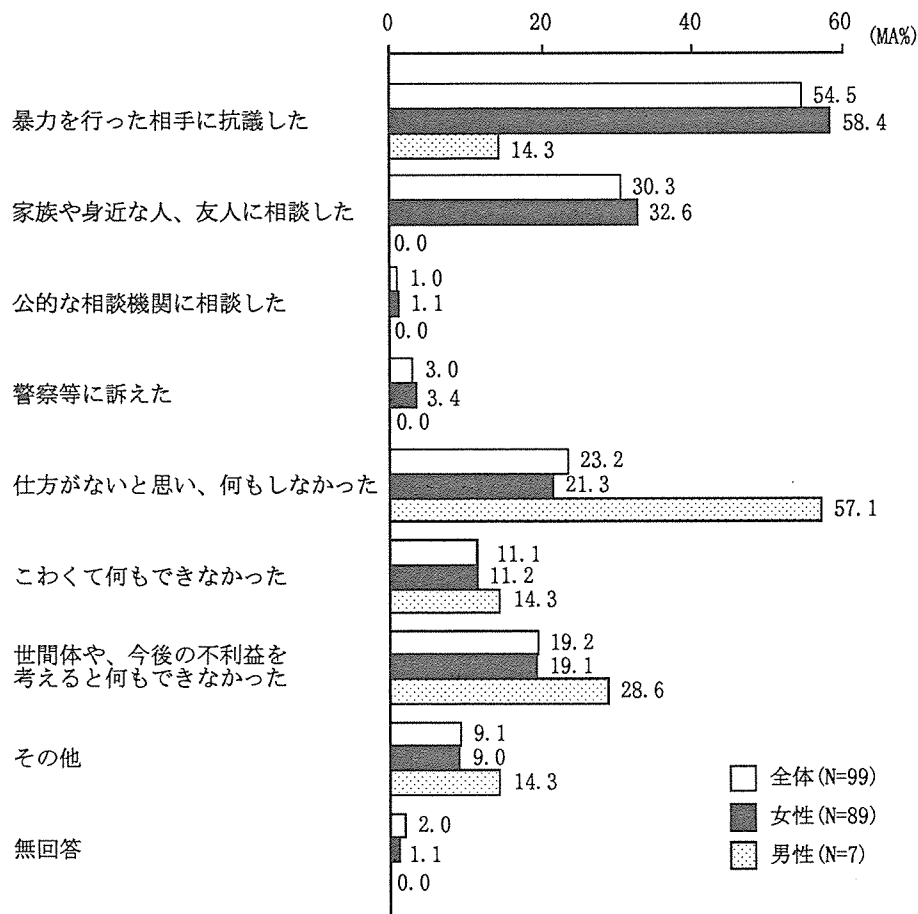
「ドメスティック・バイオレンスを受けたことがある」と回答した人の約90%が女性である。



### 3-5. ドメスティック・バイオレンスを受けた時の対応

問9-1 【問9で「1. 暴力を受けたことがある」と回答された方のみにおたずねします】

夫や恋人などパートナーから暴力を受けたとき、あるいはその後、どのような対応をされましたか。(〇はいくつでも)



◇ 暴力を受けた人の過半数が「暴力を行った相手に抗議した」。

ドメスティック・バイオレンスを受けた時の対応については、「暴力を行った相手に抗議した」が 54.5%と過半数を占め、次いで「家族や身近な人、友人に相談した」が 30.3%となっている。一方、「公的な相談機関」に支援を求めたり（1%台）、「警察等」に訴えた人（3%台）はごくわずかである。また、「仕方がないと思い、何もしなかった」（23.2%）のはセクシュアル・ハラスメントより少ないが、反対に「世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった」（19.2%）は、セクシュアル・ハラスメントよりも約 10 ポイント多い。

#### 【性別】

「家族や身近な人、友人に相談した」「公的な相談機関に相談した」「警察等に訴えた」についての男性の回答は皆無。一方、「仕方がないと思い、何もしなかった」は過半数、「世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった」は 28.6%と多い。

【性・年代別】

女性の回答を年代別にみると、「暴力を行った相手に抗議した」「家族や身近な人、友人に相談した」などは30歳代の回答割合が比較的高い。一方、40歳代以上の年代では「仕方がないと思ひ、何もしなかった」が20~30%となっている。また、60歳以上では約半数(47.6%)が「世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった」と回答している。

【性・職業別】

女性の回答を職業別にみると、「暴力を行った相手に抗議した」はフルタイマーで80.0%となっているのに対し、パートタイマー及びその他・無職では50~60%にとどまっている。また、パートタイマーでは30%強が「仕方がないと思ひ、何もしなかった」と回答している。

		(MA%)								
	調査数	暴力を行った相手に抗議した	家族や身近な人、友人に相談した	公的な相談機関に相談した	警察等に訴えた	仕方がないと思ひ、何もできなかった	こわくて何もできなかった	世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった	その他	無回答
全体	99	54.5	30.3	1.0	3.0	23.2	11.1	19.2	9.1	2.0

【性別】

性別	調査数	暴力を行った相手に抗議した	家族や身近な人、友人に相談した	公的な相談機関に相談した	警察等に訴えた	仕方がないと思ひ、何もできなかった	こわくて何もできなかった	世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった	その他	無回答
女性	89	58.4	32.6	1.1	3.4	21.3	11.2	19.1	9.0	1.1
男性	7	14.3	-	-	-	57.1	14.3	28.6	14.3	-

【性・年代別】

性別	年代	調査数	暴力を行った相手に抗議した	家族や身近な人、友人に相談した	公的な相談機関に相談した	警察等に訴えた	仕方がないと思ひ、何もできなかった	こわくて何もできなかった	世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった	その他	無回答
	女性	20歳代	15	66.7	40.0	6.7	-	13.3	-	-	13.3
	30歳代	15	80.0	60.0	-	13.3	6.7	6.7	6.7	6.7	-
	40歳代	13	61.5	30.8	-	-	30.8	23.1	23.1	7.7	-
	50歳代	25	56.0	20.0	-	4.0	24.0	8.0	12.0	16.0	-
	60歳以上	21	38.1	23.8	-	-	28.6	19.0	47.6	-	4.8
男性	20歳代	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	30歳代	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	50歳代	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	60歳以上	4	25.0	-	-	-	50.0	25.0	50.0	-	-

【性・職業別】

性別	職業	調査数	暴力を行った相手に抗議した	家族や身近な人、友人に相談した	公的な相談機関に相談した	警察等に訴えた	仕方がないと思ひ、何もできなかった	こわくて何もできなかった	世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった	その他	無回答
	女性	自営業・家族従業員	8	25.0	25.0	-	-	25.0	25.0	37.5	12.5
フルタイマー		20	80.0	35.0	-	5.0	15.0	10.0	5.0	-	-
パートタイマー		22	54.5	27.3	-	4.5	31.8	4.5	13.6	13.6	4.5
その他、無職		32	56.3	34.4	3.1	3.1	18.8	9.4	25.0	12.5	-
男性	自営業・家族従業員	3	33.3	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-
	フルタイマー	3	-	-	-	-	66.7	-	-	33.3	-
	パートタイマー、その他、無職	1	-	-	-	-	100.0	-	100.0	-	-

#### 【性・共働きの有無・妻の雇用形態別】

女性では、「暴力を行った相手に抗議した」という割合は、共働きが共働き以外を上回っており、特にフルタイムでは100%となっている。共働き以外は「仕方がないと思い、何もできなかった」「世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった」などが、共働きよりも高くなっている。

#### 【性・子どもの有無別】

女性では、「暴力を行った相手に抗議した」は、未婚者72.7%に対し既婚者は57.1%となっており、既婚者でも子どものいる人は58.6%が抗議しているが、子どもがいないと、「抗議」は約43%にとどまっている。

#### 【全国調査との比較】

〈暴力に関する調査〉では、身体的な暴行被害を受けたことについて「だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか」と尋ねている。「相談した」は50.4%で、40.9%の人が「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答している。また、相談先は家族や友人・知人に集中し、警察や公的相談機関はわずかとなっている。今回調査では、過半数の人が暴力を行った相手に抗議してはいるが、家族や身近な人に相談した人は30.3%、警察や公的相談機関に支援を求めた人は5%未満となっており、国の調査同様、公的機関は活用されにくい状況にある。